

# 地域特産種量産放流技術開発（要約） （タイワンガサミ）

與那嶺盛次・牧野清人・大隅 大\*

タイワンガサミの資源増加を図るため、人工種苗の放流技術開発や漁業実態調査等を実施した。

調査結果は平成8年度地域特産種量産放流技術開発事業総合報告書に報告しているため、ここでは要約のみを記した。

1. 今年度は与那城町海中道路北側の干潟水域に平均全甲幅9～49mmの稚ガニ31万尾（体内標識10,868尾）を放流した。台風接近のため放流尾数を調べずに放流した事例があった。
2. 放流稚ガニは、放流した夜には放流区内の密度が急激に減少し、数日間ではほとんど逸散した。
3. 第3回次の標識放流群（10,550尾）の再補状況は26尾でほとんど放流数日以内であったが、22日目に1尾（全甲幅49.7mm）、98日目に1尾（全甲幅72.5mm）あった。
4. 食害試験の結果、稚ガニがクサフグに捕食される割合は、全甲幅30mm以上で少なくなった。
5. 長期間の体内標識飼育試験の結果、全甲幅25～30mmから標識脱落率が低下した。全甲幅25～30mm

以下の区では脱皮2回以降の標識脱落もあった。死亡率は全甲幅10～15mm区で最も多く、その他の区ではそれほど差はなかった。

6. 与那城町漁協に水揚げされたタイワンガサミは雌雄とも夏場に小型個体が多く、冬場に大型個体が多かった。
7. 与那城町漁協と周辺4漁協の1996年のタイワンガサミ漁獲量は0.5～12.3トンで、与那城町漁協が最も多かった。
8. 与那城町漁協のタイワンガサミ漁獲量はここ数年間増加傾向にあったが、1996年は減少した。その主な原因として漁獲努力量の減少が考えられる。
9. 与那城町漁協と周辺4漁協の1996年のタイワンガサミ平均単価は521～762円であった。与那城町漁協は600円の3位で、前年より高くなった。
10. 1996年の与那城海域のタイワンガサミ資源はCPUEが減少したことから減少したと推定される。前年の稚ガニ定着数や稚ガニ放流数の減少が影響していると考えられる。

---

\*：非常勤職員